

分教室の旗を作ろう

— 小学部6年生 図工科 共同制作 —

大阪精神医療センター分教室

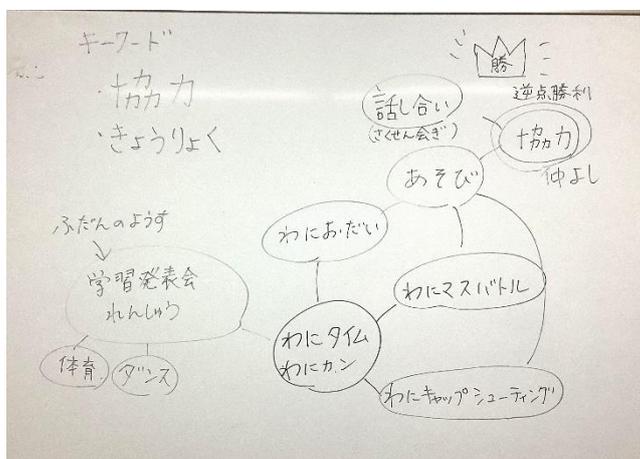
1 はじめに

大阪精神医療センター分教室では、小・中合同の取り組みである自立活動「わにタイム」・総合学習「わにカン」において、遊びや共同作業の中で、コミュニケーション力の向上、相手を受け入れたり譲り合ったりする寛容性の育成、自分に自信を持ち役割を理解して力を発揮しようとする自己効力感の育成を図っている。この単元では、自立活動・総合学習と、図工科の目標の関連を図り横断的な指導を行うことを目指した。児童の実態として、家庭環境の複雑さや本人の特性により、自分の思いが通らないときに暴言や投げやりな態度になるなどの問題があるが、日々積み重ねて指導してきた上記の三つの力が涵養されてきている様子を、児童たちの言葉や行動の端々から感じ取ることができた。

2 旗に込めるメッセージを考え絵に表す

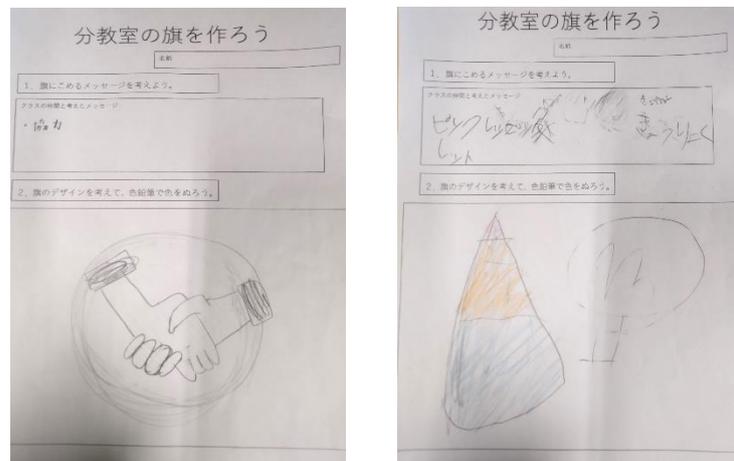
旗にはどのようなものがあり、どのような目的で使われているのかを学習した後、この度制作する旗は、本分教室の児童・生徒のためのものになること、使用する場面はいつであるかを伝えた。そしてまず旗に込めるメッセージを考えさせるため、「わにタイム」・「わにカン」での体験を思い出させ頭に浮かんだ言葉を自由に発言させた。児童たちは、「わにタイム」・「わにカン」の時間を楽しみに日々の学習に取り組んでいるため、次々と言葉が出てきた。出てきた言葉はマッピングでつないでいき、そうすることで、徐々に旗のイメージを思い描くことができた様子であった。その結果、旗に込めるメッセージ(協力)を無理なく導き出すことができた。

次にメッセージを形に表すため、各々が(協力)という言葉からイメージする形を自由に下書きさせた。指導上の留意点としては、形にこだわらず色でも表現できることを伝えた。すると、一人は具体的な形を描き、もう一人は色で表現し、どちらの児童も下絵を仕上げる事ができた。



マッピング 「わにタイム」・「わにカン」ではどんなことをしているのかを聞く
と遊びの名前が次々と出てきた。それはどんな遊びかたや、遊んだ時のエピソード
なども次々と出てきて、その流れで自然と(協力)という言葉が引き出された。

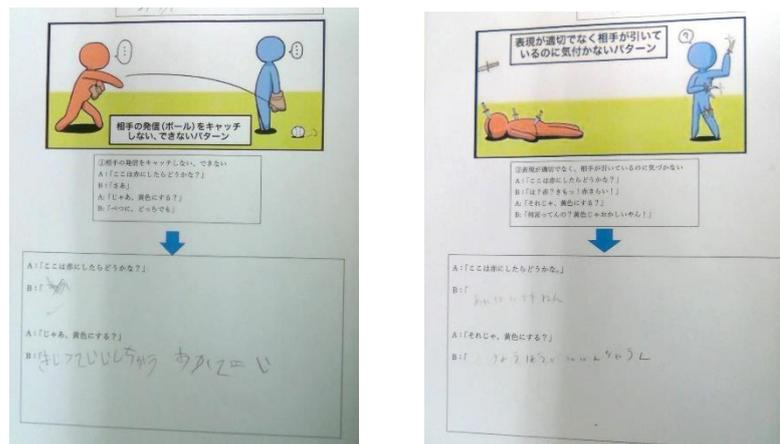
I 実践報告



下絵 (協力)という言葉のイメージを形に表した。具体的に描かれた下絵と、イメージを色で表した下絵。

3 各々の下絵を一つに

各々が描いた下絵を一つの画面に融合させる工程では Keynote を用いた。iPad に取り込んだ画像を画面上で操作し大きさや配置等を考えさせた。この活動をするに当たり事前に話し合いの仕方について学習させた。ワークシートとペープサートを使い、三つの例をもとに、自分の発した言葉によって相手がどのような感情になるのかをロールプレイをしながら学習した。ロールプレイをすると、客観的な視点が持てるためか場面にふさわしい言葉や伝え方を演じることができていた。その結果、実際に下絵を融合させる工程でスムーズに一つの画面にまとめることができた。



ワークシート 教師が良くないパターンの演技を先に演じ、自分ならどのようにして相手に伝えるかを考えてワークシートに書き、ロールプレイをした。

4 協同・協力

前時に制作した下書きを、プロジェクターを用いて幅 1.5m×高さ 1.2mの布に写し取った。作業は二時間のうち、一時間は一名の児童が休みだったのだが、休みの児童の下絵を基にその色になるように絵具を配合して作るなど、その場にはいない児童の思いをくみ取ろうとする行動が見られた。二時間目は二人とも作業に集中して取り組み作品を仕上げることができた。

I 実践報告

5 贈呈式

完成した作品は、「わにタイム」の時間に精神分教室の児童・生徒の前で発表し贈呈式を行った。その後この旗は、例えば「わにタイム」で行うゲームで勝者に授与したり、プログラミング選手権の応援旗として使用したりしている。このように、自分の制作したものをみんなに使ってもらうことで自分の力を他のために活かす喜びを感じ、そのことが自己肯定感を培う機会になることを願っている。